

2016.1.15

(2016.1.18 更新)

インターリスク・アジア

インターリスク・アジア (タイランド)

アジアリスク情報 【速報】

ジャカルタ中心部での爆発事件について(2)

昨日インドネシアの首都ジャカルタで発生した爆破テロは、4人の民間人死亡と25人以上の負傷者を出す惨事となりました。事件後イスラム武装勢力であるイスラミックステート (IS) がインターネットで「インドネシアの首都で外国人と治安部隊を標的にした攻撃を実行した」とする犯行声明を出し、インドネシア警察当局もIS関連の過激派組織による外国人などを狙った犯行として捜査を継続しています。

警察は昨日の夕方時点で事件の収束を宣言しましたが、同国では昨年末にも首都で爆弾テロを計画したとしてIS支持者と思われる容疑者9人が逮捕されるなど、ISの台頭を受け国内の過激派が再び活性化していると言われています。

インドネシアにおけるテロの脅威は今後も長期にわたって存在することが懸念されます。企業としては、従業員がテロに巻き込まれないように、今後も継続して防止策を講じていく必要があります。

1. 発生場所

中央ジャカルタのタムリン通りとワヒドハシム通りの交差点 (サリナ・ショッピング・モール前交差点)。

タムリン通りはジャカルタを南北に貫く大動脈となっています。事件発生場所は多数の商業施設・レストラン・ホテルが集まる中心エリア。日本大使館も現場から500mの距離にあります。

2. 事件の経緯

午前10時50分頃 (現地時間)

武装した集団が、スカイライン・ビルにあるスターバックスに攻撃を仕掛けました。同ビルは、中央ジャカルタにある欧米系の店舗やサリナ・デパートがある交差点に位置しています。

スターバックスの前で爆発が発生した後、犯行グループは2人の外国人 (カナダ人、アルジェリア人) を人質にしました。

犯行グループは周辺の一般市民に向けて発砲し、警察は周辺を封鎖しました。



- ★ スターバックス (スカイラインビル) : 最初の爆発および銃撃
- ★ 警察詰めの所 : 2名の犯人が自爆
- ★ Djakartaシアター : 警察と犯人による銃撃戦

午前 11 時 00 分頃（現地時間）

犯行グループのうち 2 人が交差点の中央分離帯にある警察詰め所を攻撃し、自爆しました。その場にいたその他犯行グループのメンバーは、警察との銃撃戦になりました。

一部犯行メンバーが Djakarta Theater に逃げ込み、警察との銃撃戦が発生しました。

今回の事件では、合計で 6 回の爆発が発生したとされています。

午前 11 時 30 分頃（現地時間）

重装備の警察が、Menara Cakrawala および Gedung Jaya のビル内の捜索を行いました。（当初、容疑者が他にもいると考えられていました。）

午前 15 時 30 分（現地時間）

ルフット・パンジャイタン政治・法務・治安担当調整大臣は、「全て収束した」と発表しました。

3. 被害

4 人の民間人（カナダ人 1 名を含む）と 4 人の実行犯（インドネシア人）の合計 8 人が死亡しました。実行犯のうち 2 人が自爆し、2 人が警察との銃撃戦で射殺されたと報道されています。

25 人以上が負傷しており、負傷者には警察官が 6 人、外国人が 4 人含まれています（オランダ人、オーストリア人、ドイツ人、アルジェリア人と報道されています）。

4. シンガポール、マレーシア、フィリピンの警戒状況

シンガポールは、1 月 14 日に発生したジャカルタでの爆発事件を受けて、警戒レベルを引き上げています。

外務大臣は、今回の事件はシンガポールでも同様の事態が発生する可能性に言及し、次のようにコメントしています。「全員が警戒することでそれぞれの役割を果たし、不審な行動や人物を見かけたら直ちに当局に通報してほしい。」

マレーシアの警察当局も警戒レベルを最高レベルにしており、ショッピングモール等での警備を強化しています。マレーシア警察のタン・スリ・ハリド・アブ・バカー長官は、ジャカルタで発生したような事件がマレーシア国内で起きないように、防止策を講じているとコメントしています。また、テロ集団の入国を防ぐため、国境での検査を強化しているとも発言しています。

フィリピンでは、ここ数ヶ月の間に世界で発生したテロ事件を受けて、警察が警戒を強化していました。ジャカルタでの事件を受けて、フィリピンの治安当局は国民に対して一層の警戒を呼びかけています。

5. マレーシア、フィリピンにおける危険

過激派組織「イスラミックステート」(IS)が世界的に知られるようになって以降も、マレーシアではテロ事件は発生していません。一方で、治安当局によれば、これまでに幾つかのテロ計画を事前に防いでおり、攻撃対象の中には行政の中心地であるプトラジャヤ (Putrajaya) も含まれていたようです。

直近2年間で約150人のマレーシア人がテロリストとの関係を疑われて逮捕されており、約100人が中東のISに参加していると考えられています。

マレーシア政府は、マレーシア人約50,000人がISに同調していると考えています。

ISはフィリピンもしくはインドネシアに支部 (branch) を設立することを計画しています。

これまで同国の南部でテロ集団「アブサヤフ」との対決が続けられてきたフィリピンでは、バシラン州のアブサヤフ・グループのリーダーが、いわゆる「フィリピンのイスラム国 (so-called Islamic State in Philippines)」のリーダーとして選出されたとされています。

フィリピン南部におけるISの支部設立の動きは、同地におけるISの影響力の一つの現れだといえます。

6. 東南アジア地域における近年の爆破事件

2015年8月	タイ	バンコクのエラワン廟で爆発が起き、20人が死亡した。 有名な観光地で発生した爆発事件により、120人以上が負傷した。
2009年7月	インドネシア	ジャカルタの2つのホテルで自爆テロが発生し、犯人を含む9人が死亡した。被害者の多くが外国人であった。
2005年10月	インドネシア	バリにある3つのレストランで爆弾が爆発し、22人が死亡、100人以上が負傷した。
2005年2月	フィリピン	バレンタインの日に、マニラの金融街マカティおよび南側の都市2つでほぼ同時に爆発が起き、8人が死亡、100人以上が負傷した。 アブサヤフによる犯行であった。
2004年9月	インドネシア	ジャカルタのオーストラリア大使館前で、配達車両に積んだ爆発物による自爆テロが発生した。 この爆発により11人が死亡し、200人以上が負傷した。
2004年2月	フィリピン	アブサヤフが仕掛けた爆弾により、マニラ湾でフェリーが沈没した。 この事件により、100人以上が死亡した。

7. 企業による対策

ジャカルタ市内の日本人が多く居住・勤務する地域は、主に市内中心部になります。今後、同様のテロ事件がジャカルタ市内で発生した場合、再度、日本人の居住・勤務地の近くで発生することが懸念されます。

(1) 対策の基本的な考え方

テロのリスクは政治・外交問題とも深く関わるリスクである上、一企業が講じることのできる対策には限界があります。しかし、それを理由に検討を回避することは、決して合理的な経営判断とはいえません。

テロへの備えについて、唯一絶対のものはありません。地域によってリスクの状況は異なります。自社の事業展開地域や、現状の対策度などに応じて、今後の対策のあり方を考えていくことが必要です。



① クラバガディン	⑤ ブロックM・ガンダリア
② タムリン・ステイルマン	⑥ クマン
③ スナヤン・SCBD	⑦ ボンドックインダ
④ クニンガン	2016年1月 爆破テロ発生場所

【図】日本人が多く居住・勤務する地域
(出典: Google Map <https://www.google.co.jp/maps>)

(2) 主なテロ対策について

以下に挙げた対策は、主なテロ対策を一覧化したものです。

残念ながら、テロに対しては「特効薬」といえる対策は存在せず、以下の対策例を参考に、自社としてとるべき対策を検討することが必要となります。

以下を自社対策のチェックリストとしても活用することにより、網羅的かつ効率的な検討を実施することをお勧めします。

<p>予防・事前対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 国際情勢、当該国および周辺地域の各種情報（治安状況、政情、宗教・民族事情、対日感情など）の収集、分析 →上記を可能とするための情報源（現地メディア、現地従業員など）の確保も重要 <input type="checkbox"/> 自社拠点・施設のセキュリティ調査、安全対策強化（施設強化、警備強化など） <input type="checkbox"/> 従業員およびその家族への平時における安全確保策の周知 →例) テロが懸念される施設等に近寄らない、駅・空港等における不審な人物や物体に留意する <input type="checkbox"/> 万が一テロに遭遇した場合の安全確保策の周知 →例) 爆発音・銃声を聞いたならその場に伏せる、身近な遮蔽物に身を隠す <input type="checkbox"/> 緊急連絡網・緊急時対応計画の策定または策定済内容のレビュー、同計画に沿ったシミュレーション訓練の実施 <input type="checkbox"/> 赴任者、帯同家族の渡航・退避基準 <input type="checkbox"/> 緊急退避のための手段の確保
<p>緊急時対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 安全確保策の実践と現場からの速やかな退去 <input type="checkbox"/> 関係者への迅速な第一報 <input type="checkbox"/> 政府との連携 <input type="checkbox"/> 内部情報管理（情報統制） →自社の当該テロへの対応状況を公開することが、テロ組織に「手の内」を知らしめる可能性もあるため <input type="checkbox"/> 継続的な外部情報の入手 <input type="checkbox"/> 緊急退避または第三国への脱出

■ 参考情報・Web ■

<http://www.9news.com.au/world/2016/01/14/15/16/reports-of-bombings-exchange-of-heavy-gunfire-in-jakarta-indonesia>
<http://www.channelnewsasia.com/news/asiapacific/live-blog-jakarta/>
<http://www.bbc.com/news/live/world-asia-35309116>
<http://www.bbc.com/news/world-asia-35309118>
<http://www.theguardian.com/world/live/2016/jan/14/multiple-explosions-gunshots-reported-in-jakarta-rolling-report#block-5697234be4b0831c47626688>
<http://www.straitstimes.com/tags/jakarta-blasts>
<http://www.jakartashimbun.com/free/detail/28366.html>
<http://www.straitstimes.com/asia/se-asia/dna-test-shows-fifth-militant-a-bystander-in-jakarta-attack>
<http://www.straitstimes.com/asia/se-asia/jakarta-attacks-claim-life-of-third-bystander-police>

株式会社インターリスク総研は、MS&AD インシュアランスグループに属する、リスクマネジメント専門のコンサルティング会社です。アセアン進出企業さま向けのコンサルティング・セミナー等についてのお問い合わせ・お申込み等はお近くの三井住友海上、あいおいニッセイ同和損保の各社営業担当までお気軽にお寄せください。

お問い合わせ先

㈱インターリスク総研 総合企画部国際業務チーム
 TEL.03-5296-8920 <http://www.irric.co.jp/>

インターリスク・アジアは、シンガポールに設立された MS&AD インシュアランスグループのリスクマネジメント会社であり、アセアン各国のお客さまに、火災・洪水・電気等の各種リスクサーベイ、労働安全、盗難リスクなどの各種リスクコンサルティングサービスをご提供しております。お問い合わせ・お申込み等は下記までお気軽にご連絡下さい。

お問い合わせ先

Interisk Asia Pte Ltd
16 Raffles Quay #19-05A Hong Leong Building Singapore 048581
TEL.+65-6227-4576 <http://www.irricasia.com>

InterRisk Asia (Thailand) Co., Ltd.
175 Sathorn City Tower 9th Floor, South Sathorn Road, Thungmahamek,
Sathorn, Bangkok, 10120, Thailand
<http://www.interriskthai.co.th/>
Direct: +66-(0)-2679-5276
Fax: +66-(0)-2679-5278

本誌は、マスコミ報道など公開されている情報に基づいて作成しております。
 また、本誌は、読者の方々に対して企業の事業活動等に役立てていただくことを目的としたものであり、事案そのものに対する批評その他を意図しているものではありません。

不許複製／Copyright 株式会社インターリスク総研 2015